

一般質問

● 第3回定例会『すべての子どもを受け入れる保育と児童福祉』



←一般質問の動画はこちら

杉並区では、区立園を民営化したり新しい私立園を増やしてまずはとにかく待機児童対策、としてきたため、保育の質は現場任せになっていました。しかし、**保育は市区町村が責任を負うものとして児童福祉法にも規定されています。**待機児童が解消され、杉並区もようやく「保育の質」についての話ができる状態になってきましたが、**区立園を中心として保育の質を上げるために行っている中核園の取組には、人員不足で参加できないという私立園もあります。**

私は8月に、区内の民間保育施設にアンケート調査を行いました。園の環境や人員配置の状況、子どもの権利、個別の発達を支援する体制、外国ルーツの子と家族のサポートなどなど、施設の規模や形態も様々な保育所の現状を伺い、区にはどんな補助や取組を進めてほしいかを聞きました。

その中で最も多く声が上がったのが、**支援が必要な子のために配置基準とは別で保育士を配置できるようにする「加配認定」について。**認定されないと補助金が降りませんが、「様子を見ましょう」と言われてそのまま半年…など、子どもの発達を支える環境を今すぐ整えたいのになかなかできない、という現場の切実な声を、議会の中で届けました。

● 第4回定例会

『ケアラー支援と地域共生社会』

ヤングケアラー。ビジネスケアラー。ダブルケアラー。ケアラーとは、ケアを担う人のことを言います。家族の中に介護や介助が必要な人がいて、学校の勉強に手が回らないし遊ぶこともできない、仕事を休まなければならず収入が減ってしまった、育児と介護の両方に挟まれ体力も精神も限界、といったように、潰れてしまう一歩手前で踏ん張っている人も少なからずいるのが現状です。

杉並区でも今年から「重層的支援体制整備事業」が本格的に始動し、複雑な困難を抱える家庭をまるっとバックアップできる体制をつくっていくぞ!となっているのですが、なかなか相談につながれず苦悩している方もまだまだいます。まちの中で聞いたそうした声をふまえ、どこに相談したらいいの?庁内は連携できているの?を確認しました。区としてはどの窓口で相談しても連携するように体制を整えているようですが、特に**ダブルケアなどで相談自体が難しい人へのアウトリーチは足りていません。**窓口ではそれぞれの専門職が正確な聞き取りをしたいので、ワンストップで色々相談できる窓口をつくる気は今のところないようです。今後私も**研究を続けて、今よりもっと充実した相談体制の整備を提案できたらと考えています。**



←一般質問の動画はこちら

保健福祉委員会 行政視察



10月29日 @ 岡山県岡山市 『学童クラブの待機児童対策』

地域の担い手がボランティアで行っていたところから、市立クラブへと移行が進み民間事業者も参入してきているが、待機児童対策として施設を増やしたところ、需要が増えてしまいさらに待機児童が生まれる事態に…。その渦中で課題解決のために**現在も続く試行錯誤を、お聞きしてきました。**

10月30日 @ 広島県尾道市 『重層的支援体制整備事業』

「おのまる会議」を中心に、断らない・たらい回しにしない相談体制を構築。公立病院と連携していた地域包括ケアの取組を活かし、ひきこもり支援の取組に繋がりました。さらに「お互いさま」の助け合いが広がる地域づくりを目指し、**市内7地域(島もある)で奮闘中の先進事例をお聞きしました。**



けっとく! ~決算特別委員会~

決算特別委員会では、「昨年度の区のお金の使われ方が適正だったか」をチェックします。分野ごとに日程を分けて行い、質問時間は一人6分(私は6人で会派を組んでいるので、6分×6人=36分あり、それを4人で分担して9分ずつにするなども可能)、一問一答形式で質問します。

今回は1・3・4日目に質疑を行ったので、その主な内容をご紹介します。



1日目 歳入全部、公債費、諸支出金、総括・監査意見



国や都から交付や補助を受けての物価高騰対策

- Q** 介護福祉施設や保育所などへは、**交付金申請時の予測と比べ、十分な支援ができたのか。**
- A** 介護福祉施設は対象としていた事業所のうち80%を占める550事業所に対し、食糧費や光熱費の一部を支援できた。金額は約3億3000万円。保育所は区内280カ所ほとんどすべてに支援することができ、現場からも大変助かったとの声がある。金額は約2億円。

不適切な事務処理による損失と職員育成

- Q** 部署異動などでの引継ぎのミスがなくし、職員育成を強化するためにどうするか。
- A** 現在の対策としては、財務会計や文書事務などの基礎的な研修を、対面の研修だけでなく、研修動画をつくり職員が自分のタイミングで学べるようにしている。

2日目 総務、区民生活、職員費、議会費

※てらだはるかの質疑はなし

3日目 保健福祉、環境清掃



児童館の運営費、減らさずに有効活用してほしい

- Q** 中高校生赤ちゃんふれあい事業は、学校で行う命の安全教育にもつながる取組。児童青少年課として考える取組の意義は?
- A** 中高校生にとっては、実際に赤ちゃんを抱くことで自分の存在や親の気持ちを考えるなど**将来の見通しや命の重みを知るきっかけとなる。**また乳幼児の保護者にとっては、日常では出会えない中高校生と交流する中で、わが子の育ちの見通しを持つ機会にもなっている。

災害時の保育

- Q** 水害ハザードマップ上で浸水区域にかかる保育園・子供園は106園。いずれも過去10年間では大きな浸水被害は出ていないが、区の地域防災計画では、水害時の応急保育は「震災編に準ずる」となっている。業務の継続として、震災と水害は被害も違うが、同じでよいのか。
- A** 1階部分が完全に水没するような場所はないため、水害に関して特に協定などは結んではいないが、近隣の園同士で「災害対策」として助け合う体制をつくってもらっている。

いのちをまもる取り組みは今後も追求します!

4日目 都市整備、教育



西荻窪、富士見ヶ丘、阿佐ヶ谷の駅周辺について、まちの営みを壊して道路が拡幅されるのか、対話の取組によってどう舵を切るのか、昨年引き続き、議論しました。

- Q** 富士見ヶ丘通りの安全確保について、去年は警察とのやりとりの中で「一方通行は難しい」と答弁があったが、その後の進捗は?オンランプの話もあるので、先延ばしにしないでほしい。
- A** 地域の意見を受けて高井戸警察と再び懇談したが、一方通行にすると、環八を避けて住宅街の生活道路に南北の通路を求めて車が入ってくるため、やはり難しいという結論は変わらなかった。地域の方に納得してもらえる安全対策を、聞き取りをしながら考えたい。

- Q** 西宮中周辺施設の施設マネジメントワークショップ参加者からは、「地域の事情がこうで、こういう課題があり、こんな街にしたいからここにこの施設、という考え方でまちづくりをしたい」という話も聞いているが、区の対話の取組はまだそうっていない。区はこの声をどう受け止めるか。
- A** 区も「まちづくり」「ちいきづくり」を大切にすることを理念として施設マネジメントを進めていこうとしている。予算や土地・面積の縛りで難しい面もあるが、**地域の方と一緒に考えていきたい。**